

生涯にわたって 社会のいたるところで学ぶための方法序説

荒川コミュニティカレッジにおける学習支援の実践 ～修了生グループによる「大人のゆるい読書会」～

中泉 理奈

提案：講座からグループ化し、地域活動につなぐ学習支援について、実践をふりかえり、学びあう時間を持つくりませんか？

東京都の特別区社会教育主事会では、題別研究部会にて、会員のニーズに合わせてテーマを設定し、情報交換や研修などを実施しています。私は「学びを活動につなげる」部会の企画・運営に関わっています。この部会では、地域活動に関する講座や地域活動団体の支援について、各区の取り組みから学びあう機会を持っています。

2025年6月に開催した部会では、「講座からグループ化する際の学習支援」と「既存団体への活動支援やネットワーク化」に分かれて情報交換を行いました。「主体的な団体活動を促進するサポートの在り方」、「高齢化等による団体の担い手不足に対する支援」など、実践での葛藤や課題を

題を出し合うと共に、解決策についても話し合いました。

課題を解決し、地域の活動を拡げるための工夫として、「人がつながる機会をつくっていかることが必要なのではないか」、

「地域活動をはじめる際のサポートの在り方が、その後の活動の発展につながるのではないか」などの意見が挙がりました。

実施後のアンケートで、今後も部会への参加を希望する声が多くありました。学習や活動の支援は、個別のケースにより対応が異なるため、情報交換や研修によって、明確な答えを持ち帰ることは難しいですが、実践から学びあう時間が個別のケースに合わせて、広い視野で対応を考えることにつながるのではないかと考えます。

本稿では、講座からグループ化する際の学習支援について、地域課題について考える講座を実施し、後半にグループに分かれて行う事業企画に向け、ご自身の興味関心を広げる機会としています。

後半は、各自の興味関心事を出し合い、グループに分かれて

「荒川コミュニティカレッジ（以下、コミカレ）」の継続的な視点を持つた学習支援の取り組みを紹介します。

学習プログラムと活動支援のつながり

荒川コミュニティカレッジ（以下、コミカレ）は年間20回の講座を実施しています。

前半で、施設見学や区職員の話から区を知る講座、グループでまちを歩く講座を実施し、共に学ぶ仲間と知り合いながら地域について学びます。

中盤では、さまざまな人が暮らす地域の現状を学ぶ講座、地域活動実践者のお話から地域の課題や、取り組みを知る講座を実施し、後半にグループに分かれて行う事業企画に向け、ご自身の興味関心を広げる機会としています。



知って楽しむ “あらかわ”

荒川コミュニティカレッジ第14期の受講生グループが荒川区の魅力を活かした地域のつながりづくりについて発表します。
この機会に地域について学びあいましょう。

2/15(土)
10:30~12:00
開場時刻 10:20~

会場

サンパール荒川
4階 第2・3集会室
住所: 荒川区荒川1-1-1

4月より、第15期生を募集します!
受講を検討されている方、大歓迎です!!

【問い合わせ】荒川区立生涯学習センター
住所: 〒116-0002 荒川区荒川1-3-49-1
電話: 3802-2332(代表) FAX: 3802-3265
メール: arakawa-sgc@city.arakawa.lg.jp

参加費無料
出入り自由
オリジナルグッズ
差し上げます!

ゆる~い読書会

グループ名: ゆる~い委員会 10:35ごろ~
ゆる~い感じの読み会です。
これまで読んだ本を1冊紹介します。本を読む人には新しい本を、本を読まない人は、読んだ気持ちにさせる。そんな読み会。

商店街に行ってみよう

グループ名: 商店街グループ 11:00ごろ~
商店街を通じて人々と繋がろう!
下町特有の商店街に足を運んでみよう! 店の人やお客様との出会いから「気づき」を発信しよう!

ひぐらしのまち紹介

グループ名: まち紹介グループ 11:25ごろ~
燃えぬ下町特有のイメージや、現代のあわただしい日々の暮らしに対して、過り前の懐親を探し、のんびり過ごせる場所(大きな公園など)を紹介します。

※各グループの実施時間は目安になります。

ポスター1：第14期学習成果発表は、地域のつながりづくりを企画し、プレゼンテーション形式で、区民に地域の魅力を紹介した。

導員（以下、指導員）に連絡ミカレ担当の社会教育指導員（以下、指導員）に連絡したいと、コ

ミカレ担当の社会教育指導員（以下、指導員）に連絡したいと、コ
ミカレを知る講座づくりと他部署（図書館）との連携
に荒川区の中央図書館である「ゆいの森あらかわ（以下、ゆいの森）注」と連携し、施設見学と図書館職員や司書による取り組みを紹介する講座を実施しました。

荒川区では、誰もが気軽に読書を楽しむことができ、また読書を通じて人と人、本と人、地

活動し、1年間の学習成果を再確認し、コミカレ修了後のさらなる学習や地域活動につなげることを目的に、学習成果発表を行います。

2024年5月から翌3月に実施した第14期生は『地域の魅力を活かした地域のつながりづくり』のために自分たちができ

ることをグループで考え、プレゼン形式で発表する学習成果発表を行いました。（※ポスター1）

最終回では、学習成果発表や一年間の学習の振り返りを行っています。その際、「グループで企画した内容を、実際に地域で実施してみませんか？」と、お

声掛けをしています。

がありました。

コミカレ修了後は、既存の活動に参加する、地域活動団体を立ち上げ活動する、個人でボランティアとして参加する、新たな学びの機会に参加するなど、さまざまな関わり方で多くの方が地域での学習・活動に継続して取り組んでいます。

第14期修了

後から1ヶ月ほど経つて、

読んでこななくても参加できる読書会です。

この取り組みは、①本の発見、②読書の面白さ・醍醐味を実感、③読書を通じた自分自身の再発見、④知り合いが増え、つながる。ということを目的にした事業で、最初に2~3人がおすすめの本を15分程度で紹介し、その後に興味がある本に分かれていでグループで交流します。本を読んでグルーブで交流します。本を

を目指し、2018年に「読書

を愛するまち・あらかわ」を宣

言したのち、2023年4月1

日に「荒川区豊かな心を育む読

書のまちづくり条例」を施行す

るなど、区民の皆さんや区内事

業者の方々を含め、読書活動の

取り組みを促進し、あらゆる世

代が生涯にわたり豊かな心を育

めるよう読書のまちづくりを推

進しています。

ゆいの森は、約60万冊の蔵書

規模を誇る図書館のほか、荒川

区出身の小説家・吉村昭氏の「記

念文学館」、子どもたちの夢を育

み成長を促す「子どもひろば」

が一体となった、赤ちゃんと

高齢者まですべての世代の方が

遊び、学び、楽しめる複合施設

です。講座では、施設の概要だ

けでなく、図書館運営の裏側まで知ることができました。

学習成果発表で、興味関心の

グループに分かれる際、講座で

知り得た情報もひとつのかつ

けになっているのではないかと

考えます。講座を企画する際、

他部署と連携することで、区の

取り組みや地域について知る機

会を増やし、参加者の興味関心

事が広がる学習支援

を意識しています。

今回のケースは、そ

の成果の表れと考え

られます。

指導員が継続して

活動支援として、自主

企画の会場確保や周

知などについて、グ

ループに説明しまし

た。また、今後の活

動を見据えて、社会

教育関係団体への登

録等についても案内

をしました。

指導員は、グループの話を受

け止めながら、葛藤しながらも、

ただ要望に応えるということで

はなく、長期的な視点で活動の

自立を視野に入れ、丁寧に対話

や連絡を重ねることが大切であ

ると考えていました。加えて、

はじめての実施に向けては、不

安が少しでも解消され、グルー

プの主体性を大切にしたコミュニケ

ーションを意識していました。

話し合いを重ね、2025年

7月、ゆいの森にて「大人のゆ

るい読書会」を実施することを

目指し、調整と準備をすすめま

した。

**「大人のゆるい読書会」実施と今
後に向けて**

6月、ゆいの森の職員と調整

し、読書会開催に向けて、ゆい

の森事業担当係長と図書館司書

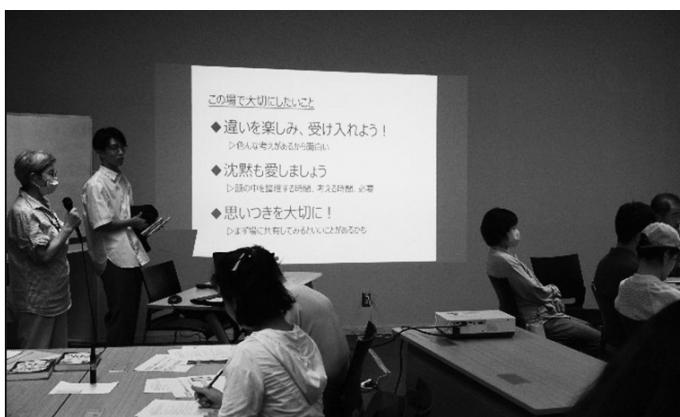
に読書会の運営方法等を相談す

る時間を持ちました。読書会の

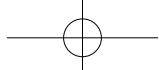
方法や初回の運営に加え、今後



(写真1) スライドや動画を活用し、参加者に問いかけながら本の内容や興味を持った点などを紹介した。



(写真2) コミカレでの学習を活かし、円滑なグループコミュニケーションに向けて大切にしたいこと確認した。



を見据えてのアドバイスをいたしました。私たち職員もゆいの森や図書館の取り組み、図書館司書の役割や専門性を知る機会となりました。ゆいの森からは、当日の運営協力として、グループが紹介する本に関連する本を図書館司書が選定し、参加者に紹介できるようバックトラックを装飾し、関連本を準備いたすることになりました。

開催チラシは、グループが作成し、周知は、生涯学習センターが中心となり、HPやSNSへの情報掲載や、各施設へのチラシ配架、区営掲示板への掲示等を行いました。その結果、期限を待たずに申込定員を超える抽選により参加を決定することになりました。

酷暑の実施日、会場案内などもメンバーが作成し、職員と一緒に掲示しました。会場には16人が集まり、はじめての読書会を開催することができました。

だくことができました。私たち職員もゆいの森や図書館の取り組み、図書館司書の役割や専門性を知る機会となりました。ゆいの森からは、当日の運営協力として、グループが紹介する本に関連する本を図書館司書が選定し、参加者に紹介できるようバックトラックを装飾し、関連本を準備いたすことになりました。

最初に、3人のメンバーが本を紹介し（写真1）、その後、グループ交流における話し合いのルールを確認し（写真2）、読書を通した活発な意見交換や交流ができました。

話し合いのルールについては、コミカレ第3回講座で学んだことを活かしたいという希望があるため、指導員が講師に連絡を取り、話し合いのルールを活用することについて許可を得ました。このように、ひとつひとつ講座や学習方法が活動に活きるという視点で、再確認することになりました。

8月初旬、読書会メンバー、担当職員でふりかえりを行いました。次回の開催に向けて、開催目的と照らし合わせ、準備や

当日の進行、各グループでどのような話が展開されたかなどの意見交換をしました。グループで交流した参加者と名刺交換をしたメンバーからは、参加者から感想メールが届いたなど、う

れしい報告がありました。

実施後のアンケートでは、今後、この読書会で本の紹介をやつてみたい方がいるか調査をしました。希望された方が数名いたので、実施に向けて調整のスケジュール確認などを行いました。読書会を通して、新しいつながりをつくりながら、読書の輪を広げていく視点や、運営者と参加者という関係だけではなく、参加者が運営者にもなる双方向の関係で、読書会をつくるとする試みから、私自身、社会教育の事業運営を改めて振り返るきっかけとなりました。

次回は、宮城県角田市から佐藤さんの発想する！授業です。私も楽しみにしています！

○注
中泉理奈 荒川区地域文化スポーツ部生涯学習課社会教育主事

読書会の取り組みから改めて新たな人の引き入れ方や参画を促す仕組み、地域に活動を広げる姿勢について学び、これからも多様な地域参加・参画を広げる学習支援や学びを活動につなげていく際の仕組みづくりを行っていきたいと思います。また、講座の企画や、地域活動の支援に関わる社会教育関係職員や社

会教育士が共に学びあう機会をつくり、学習者や活動者の主体性を大切にした関わりや、学習や活動を広げていく支援の在り方を探求していきたいと思いま

す。読者のみなさまから希望があれば、オンラインでの学びあるいはつながる交流会なども企画していきたいです。

是非、一緒に企画してみませんか？

藤さんの発想する！授業です。私は楽しみにしています！

「ゆいの森あらかわ」は、人と人、本と人、地域と人が結びつき、好奇心を醸成し、新たな発見や出会いを創造する施設として、2017年3月東京都荒川区に誕生しました。
<https://www.yuinomori.city.arakawa.tokyo.jp/contents?pid=165>